

令和7年度事業計画書

公益目的事業

1. 講演会等の普及啓発

(1) 2025年度五井平和財団フォーラム開催（会場・アーカイブ配信）

開催日 令和7年11月29日（土）予定

場 所 東京都千代田区 日経ホール

参加予定者 会場定員約600名およびオンライン視聴者

(2) 講演会の開催

①「講演会シリーズ：21世紀の価値観」

オンラインで年2回開催 対象は賛助会員および一般

視聴者見込み 各回約1000名

②中高生キャリア支援プログラム「私のコンパス」

オンラインで年2回開催 対象は全国の中学生・高校生

募集人数 各回最大100名

(3) Living New ワークショップ

対象は賛助会員および一般

・オンライン・ワークショップ年1回開催

・普及を目的にカリキュラム化を検討

(4) 賛助会員との交流及び活性化事業

①五井平和財団会員総会開催

オンラインで年1回開催 対象は賛助会員および一般

参加予定者 約1000名

②地方懇談会の開催

年1回開催 対象は賛助会員および一般

開催地未定

参加予定者 約100名

③ボランティア活動

コミュニケーターの活性化 財団活動の広報・普及

コミュニケーター研修会（オンライン）

ピースフル・プロジェクト

(5) 「富士宣言」推進（パートナー組織および事務局として）

① 「富士宣言」パートナー団体との共催事業

■ コンシャス・ビジネス・アライアンス

共催：ブダペスト・クラブ、ヒューマニティズ・チーム、ケース・ウェスタン・リザーブ大学

目的：新しいビジネス・パラダイムを模索するビジネス・リーダーたちと連携し、自然環境の保全と人類の幸福の拡大を図りつつ、経済的繁栄を達成する新しいビジネス・モデルの創造

内容：コンシャス・ビジネス・デklarレーションの推進、コンシャス・ビジネス・デーの制定・促進、コンシャス・ビジネス認証

■ ソウル・オブ・ウィメン

・女性の会（国内） 定期開催

■ 富士宣言 寄稿・インタビューシリーズ

② ウェブによる推進

- ・ウェブ上で賛同者ネットワークの拡大、イニシアティブの推進を継続的に展開
- ・富士宣言に関する記事の掲載・寄稿

<http://fujideclaration.org/>

(6) 各種情報媒体の活用

① 機関誌「平和の創造」および「MPPOE ニュース」発行

季刊 各約 5,000 部作成と発送

活動報告、新しい方向性、発信すべき情報等を掲載

② インターネット

ウェブサイト <https://www.goipeace.or.jp>

メールマガジン「平和の創造」（日本語）、「Goi Peace News」（英語）発刊

ソーシャルメディア（Facebook、Twitter、Instagram 等）活用

YouTube 公式チャンネル（日英）

各種イベントの動画制作およびオンライン配信

③ パンフレット等

財団紹介パンフレット（日英）

既存パンフレット等の有効活用

2. 五井平和賞顕彰事業

(1) 2025 年度五井平和賞

■趣 旨

教育、科学（人文・自然）、文化および芸術の分野で世界平和に資する活動・研究を行い、その方向性において全てとの調和を中心に据えた人類社会の招来という五井平和財団の理想と一致した個人または団体に授賞

■授賞式 令和 7 年 11 月開催予定の 2025 年度五井平和財団フォーラムで実施

■選考委員

(委員長) 佐藤 禎一	東京国立博物館名誉館長 元国際連合教育科学文化機関日本政府代表部特命全権大使 (当財団顧問)
明石 康	公益財団法人国立京都国際会館理事長、元国連事務次長 (当財団理事)
加藤 秀樹	一般社団法人構想日本代表、京都大学経済学研究科特任教授 (当財団監事)
黒川 清	東京大学・政策研究大学院大学名誉教授、日本学術会議元会長
近衛 忠輝	日本赤十字社名誉社長
西園寺昌美	公益財団法人五井平和財団会長
田坂 広志	学校法人 21 世紀アカデミア学長、多摩大学大学院名誉教授

3. 研究会等の調査研究

■平和科学調査研究会

年 1 回開催

幸せの価値観、新しい社会モデル、科学的事例調査各分科会による活動
自由研究、平和へのシナリオ、数学、生命憲章と科学思想についての調査研究
新しい文明に向けた価値観の共有

「つながり」を共通テーマとした「富士宣言」に関するリサーチ

■ユース層に対する平和意識のアンケート調査

25 歳を上限とする国際ユース作文コンテスト参加者を対象に、任意で平和意識に関するアンケートを行った、5 年間のデータの推移を分析。また、青少年が求める平和教育の考察にも活用。

■Goi Peace Pod

関係性を深化するオンラインのコミュニケーション・ツール Pod*（ポッド）を活用したワークショップの提供と、世界平和ならびに社会変容を担うボランティア・コミュニティの形成を目指す。

*Pod：オンラインプラットフォームと Zoom を併用し、2 週間にわたりテーマに取り組み、意識の変容を図るプログラム。テーマを掘り下げるための読み物や動画「HEAD」、実践やチャレンジなどを提案する「HAND」、テーマを振り返る質問「HEART」で構成される。

4. 国際交流事業

(1) 国連、ユネスコ、各種国際機関との交流事業

国際連合経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格を有する NGO、ユネスコ（国連教育科学文化機関）との公式関係を有する財団としての支援事業など

(2) 海外民間団体等との交流事業

- ・ブダペスト・クラブ
- ・モハメッド六世環境保護財団（モロッコ）
持続可能な開発のための教育（ESD）における平和教育ならびに環境教育促進のための共同プロジェクト
 - ノウハウの相互提供
 - 教育教材の共同開発
 - 両国の学校間交流など
- ・MIT 世界平和大学（インド）
- ・シティ・モンテッソーリ・スクール（インド）
- ・サービススペース（米国）
- ・ユニティ・アース（米国）
- ・エボリュショナリー・リーダーズ（米国）
- ・シェンゲン・ピース・ファウンデーション（ルクセンブルク）
- ・ホーム・フォー・ヒューマニティ（フランス）

(3) 駐日外交官による交流プロジェクト

①群馬県立女子大学連携講座「グローバル・シチズンシップ ー大使リレー講座ー」

令和7年度は「SDGsの達成に向けて」（全12回）を副題とし、SDGs達成に向けて先進的な国の大使・外交官の紹介で協力予定。

②各国駐日大使館と日本の学校・教育機関との交流支援

(4) 姉妹団体活動協力

May Peace Prevail On Earth International（米国の非営利法人）の日本窓口

- ・日本語ウェブサイトおよびメールマガジン等による情報発信
<http://www.worldpeace-jp.org>
- ・平和意識を個人から社会へと広げていく小学生対象の Peace Prevails Program を推進

5. 2025年度 国際ユース作文コンテスト

「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）」を推進する事業として実施してきたが、これまで築いてきた受賞者をはじめとする参加者のネットワークを活性化し、平和構築への積極的参画を促すプログラムへの移行を目指し、本事業の見直しを検討

■ 選考委員

- (委員長) 千 玄室 茶道裏千家前家元 (当財団理事)
- 西園寺昌美 公益財団法人五井平和財団会長
- 都倉 俊一 作曲家
- 成田 純治 株式会社博報堂相談役 (当財団理事)
- 服部 真二 セイコーグループ株式会社代表取締役会長兼
グループ CEO 兼グループ CCO
- 松浦晃一郎 一般社団法人アフリカ協会会長、前ユネスコ事務局長
(当財団評議員)
- 美内すずえ 漫画家
- 矢崎 和彦 株式会社フェリシモ代表取締役社長
- 葉 祥明 絵本作家

■ 主 催 公益財団法人五井平和財団

■ 後 援 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、日本私立中学高等学校連合会、東京都教育委員会、NHK、日本経済新聞社

■ 協 賛 セイコーグループ株式会社、プラス株式会社

国際ユース作文コンテスト受賞者ならびに参加者のオンライン交流プログラム

① Winners Forum によるオンライン交流

歴代受賞者を対象に、Facebook グループなどを利用して、世界中の若者同士が互いの多様な価値観や生き方から学び、平和な世界を共創していくコミュニティを形成し、継続して交流。

② Goi Peace Youth Community

「平和意識調査アンケート」において、若者たちが平和を構築する上で必要とするものとして、「教育、学びの場」、「自分の意見を発表するチャンス」、「同じような思いを持った同世代の人とのつながり」が上位に挙げられたことを受け、若者たちが求めるこれらの場を提供し、多様なバックグラウンドを持つ参加者たちがつながり合い、学び合えるコミュニティの構築を目指す。

③ 歴代受賞作品を活用した平和教育プログラム

学校などの教育の場で、作文受賞作品などを活用した「生命の尊厳」「すべての違いの尊重」に資するワークショップ等のカリキュラムの作成を目指す。

6. 地球っ子広場

- **活動趣旨** 子どもたちが放課後や休日に、広く社会と触れ合える居場所を創設し、保護者、地域の人々が集う、良き地域コミュニティを目指し、生命・平和・環境等を大人と子どもが共に学ぶ広場を運営する。

コロナ禍を経て、子どもの集まれる環境等の変化に鑑み、本事業の見直しを検討

- **活動内容**

- ・ マニュアル・教材の有効活用

これまでの実践を体系化して作成したマニュアル、モデル教材（日英）を活用して、国内外での更なる展開を図る。

7. 社会起業家育成プログラム

国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）の推進ならびにユネスコ・持続可能な開発のための教育（ESD）の推進事業として実施。

- **内 容**：持続可能な開発目標（SDGs）の達成に資するアイデアやプロジェクトを募り、若者の社会起業を奨励・育成するオンライン・キャンパスおよびオンライン・コンペティション
- **主 催**：五井平和財団、スティッフタンク・アントレプレナーシップ財団
- **応募部門**：ベスト・アイデア部門、ベスト・プロジェクト部門
- **応募締切**：6月30日
- **各 賞**：最優秀賞、2位、3位、ヤングスター賞、ピープルズ・チョイス賞／各部門1点
- **授賞者発表**：オンライン授賞式で発表
- **選考方法**：ウェブサイト上で最多得票を集めたエントリーにピープルズ・チョイス賞を授与
得票数により、各部門上位10位までのファイナリストの中から選考委員が最優秀賞、2位、3位、ヤングスター賞を選考

8. ユネスコ活動・ESD（持続可能な開発のための教育）

① ユネスコ未来共創プラットフォーム for 2030 —UNESCOconnect—事業に応募

- **ユースによるユネスコ活動活性化支援**

ユースによる多様なステークホルダーとの連携、ユースフォーラムの開催、研修会の実施、国際会議への参加等の支援を通じて、ユースのユネスコ活動への主体的な参画を促すことにより、ユースのネットワークを強化し、ユースの声をユネスコ活動へ反映するとともに、その成果を国内外に発信する。

（業務内容）

- SDGsの達成年限である2030年に向け、SDGs達成の担い手であるユースのユネスコ活動への参画を促すための6か年戦略の策定と実施
- ユースフォーラムの企画・運営
- 教育、科学、文化分野のユース研修会の企画・運営
- 国内ユネスコ関係のイベント等へのユースの派遣
- ユネスコが主催する国際会議等へのユースの派遣

② ユネスコ ESD-Net 2030 のパートナーとして各種ウェビナー・会合に参加

③ 『SDGs キャンパス・ミーティング』

SDGsの担い手となるユースの育成

- ・ 年1回、対面開催

- ④ ESD 日本ユース・コミュニティミーティング
約 300 名からなる ESD 日本ユース・コミュニティへの学びと交流の場を提供し、ユース・コミュニティの更なる活性化を図る。
・年 1 回（オンライン併用）
- ⑤ ESD 岡山アワード
ESD 岡山アワードを運営会委員ならびにアワード審査員を担当
- ⑥ ユネスコスクール等の活動支援
 - ・千葉県立市川昂高等学校「開かれた学校づくり委員会」に委員として参加等
 - ・ESD・SDGs に関する授業やプログラムの支援
ユネスコスクール等における、総合学習や課外活動、研修プログラムなどへの支援
 - ・中学生・高校生チャレンジプログラム『GOALS』
首都圏 4 校の生徒が SDGs に関する活動を共同して行うプログラム

9. 青少年育成に係る若手指導者養成奨学金事業

本奨学金制度は、青少年が心身ともに健全で、持てる能力や創造性を発揮し、いきいきと尊厳をもって活躍できる豊かな社会づくりを目的に、スポーツ・芸術の分野において青少年育成に係る指導者を目指す将来有望な若者に対して、必要な知識や能力を身につける研さん活動への経済的援助を行うことを目的とする。

当初予定の 5 年を超えたことから新規募集を終了し、これまでに採択された奨学生の支援を継続。

- 選考委員：（委員長）成田 純治 博報堂相談役（当財団理事）
魚谷 雅彦 資生堂代表取締役社長兼 CEO
西園寺裕夫 五井平和財団理事長
竹田 恆和 日本オリンピック委員会前会長
都倉 俊一 作曲家
服部 真二 セイコーグループ代表取締役会長兼
グループ CEO 兼グループ CCO

以上